



わたくしたちの よい学校

あこがれとありがとうでつながる みどりっ子

学校教育目標

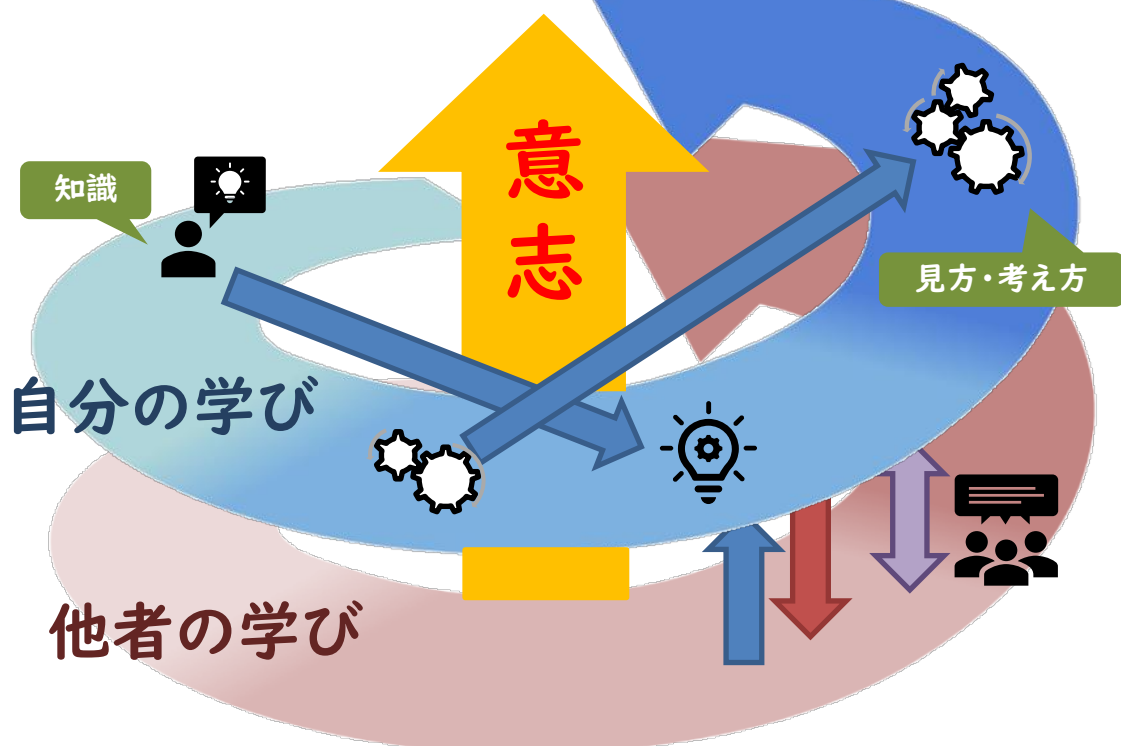
強い子・やさしい子・考える子・きまりよい子

研究主題 **学びに自分の意志をもつ子**

研究の重点

つなぐ学び

資質・能力の育成



1. 自らの学びをつなぐ

見通し⇨行動⇨結果

獲得した知識・生活経験

⇨様々な場面

学んだ学び方⇨新たな課題

働かせた見方・考え方⇨

次に働かせる見方・考え方

2. 他者の学びを 自らの学びにつなぐ

自分⇨他者

目的をもって他者とつながる

他者から学びとることを選択する

他者との学びを通して、

新たな価値を見出す

研究主題

学びに自分の意志をもつ子

「意志」とは

—「学びに自分の意志をもつ子」の育成に向けて—

本校では、令和4年度より継続して「学びに自分の意志をもつ子」の育成を研究主題として掲げてきました。令和7年度においても、この主題をさらに深化させ、教師の意識変容と実践の質的向上を目指していきます。

1. 研究の出発点—教室と職員室の接続

研究の根幹にあるのが、「教室と職員室はつながっている」という考えです。この言葉は、単なる比喻ではなく、実際の教育実践において示唆的な意味をもっています。教室で展開される授業と、職員室で交わされる教師同士の対話や共有は、分断されたものではなく、相互に影響し合い、子どもたちの学びの質を規定するものであると考えます。授業研究や教材研究、日常の指導についての相談やちょっとした立ち話を通して、職員室での協働が子どもの学びに直結します。今年度も、職員室が「授業について語り合う場所」としてあり続けることを大切にすることが、学校全体の教育力を底上げする鍵となると考えています。

2. 研究主題の核心—「意志」をもつとは何か

「学びに自分の意志をもつ子」という表現に込められた「意志」とは、

自ら何かを「～したい」と望み、その実現に向けて行動しようとする内面的な働き

と位置付けています。

この「～したい」という内発的な動機は、単なる感情（好き・嫌い）とは異なり、目的意識を伴って行動に向かおうとする意図を含んでいます。そのため、「意志」は、「願望」や「希望」にとどまらず、行動へと方向付けるものだと考えます。

緑丘小の子どもたちが、決して意志を欠いているということではありません。むしろ、「～したい」という欲求は強く、日常の活動においてはそのエネルギーが表出する場面も少なくありません。問題は、それが「学び」へと向かうかどうか。そして、それが「学び続ける意志」として持続するかどうかだと考えます。私たちが目指しているのは、子どもを変えることなく、子どもが本来もっている意志を、学びに向けて発揮できるよう、教師自身が関わり方や授業の展開、環境づくりを工夫していくことです。

今年度は、3年研究の2年目にあたります。昨年度までの課題を受けて、緑丘小の子ども「学びに自分の意志をもつ姿」がどのような姿なのか、その姿をより具体化できるよう、全校で研究を進めて参ります。

研究の重点

つなぐ学び

3. 研究の重点—「つなぐ学び」というコンセプト

本校で継続して、「学びに自分の意志をもつ」ことに着目してきたことで、以下のような、緑丘小の子どもたちの課題が明らかになってきました。

緑丘小の子どもたちの課題

「自分から発信すること」
「友達の意見を参考にして、
自分の学習に生かそうとすること」
「解決に向けて、方法など、見通しをもつこと」

この課題は、札幌市教育委員会から発出されている「学習などに関するアンケート」の分析から分かります。

6	自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。	75.1%	
7	自分の意見を進んで発言しようとしている。	71.8%	「自分から発信すること」に関する項目
11	新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。	81.6%	
	振り返ったことを、次に生かそうとしている。	82.3%	「友達の意見を参考にして、自分の学習に生かそうとすること」に関する項目
17	自分の目標をもって生活している。	83.3%	
19	自分で計画を立てて勉強している。	76.5%	
20	疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。	80.8%	「解決に向けて、方法など、見通しをもつ」ことに関する項目 (特に、No.20 に関しては近年減少傾向にある。)
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	88.7%	

「学習などについてのアンケート」（令和6年度実施）より抜粋

だからこそ、今回の研究では、意志をもつだけではなく、様々な場面で発揮された意志をもち続けることが重要だと考え、

研究の重点 つなぐ学び

を設定しました。

現行の学習指導要領が施行され、主体的・対話的で深い学びが大切にされ始めたときから「つなぐ」ということは意識されていました。しかし、様々な学びが「つながっている」と実感できることが、意志を発揮する原動力になると考えました。

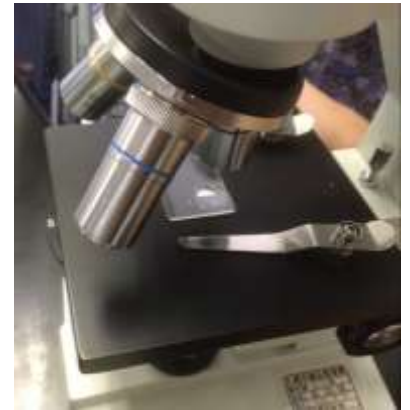
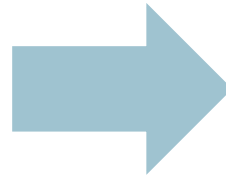
ここで、「つなぐ学び」について、具体的な事例で考えてみます。

過去の実践から

6年理科「水溶液の性質とはたらき」の学習の際に、水溶液に溶けているものが何かを明らかにしたいと考えた子どもが、「出てきた白い粉を顕微鏡で見れば、溶けていた物が何か分かる。」と言ってきたのです。

6年理科

「水溶液の性質とはたらき」

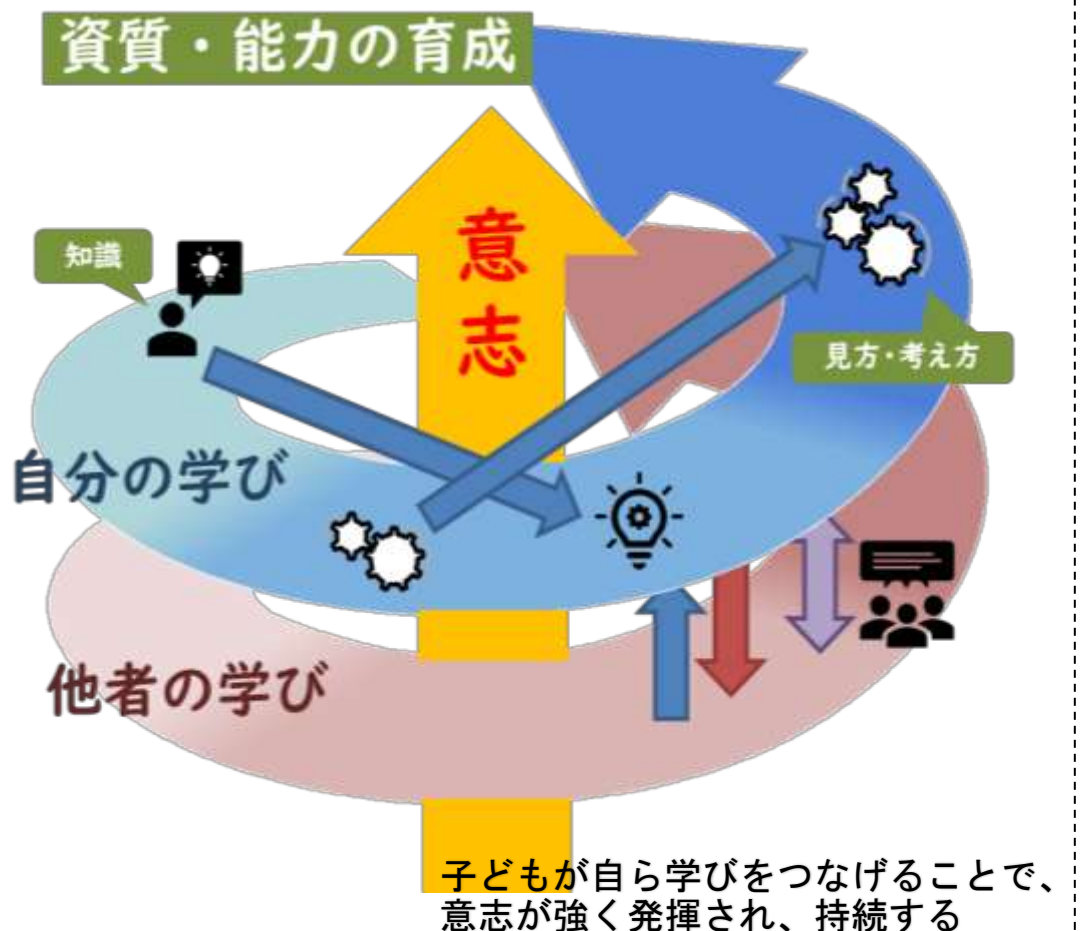


5年理科「物のとけ方」

その子どもは、5年生の「物のとけ方」の学習の際に、顕微鏡で食塩やミョウバンの溶ける様子や析出した様子を観察した経験がある子どもでした。

このことから、子どもは、5年生の理科の学習で、顕微鏡で観察して溶け方について明らかにした経験を、6年生の水溶液の学習につなげることで、学ぶ意志を強めたのではないかと考えました。

また、このような単元間や学年間でのつながりが感じられた事例は他の学習でも見られました。しかし、いずれも教師が意図的につながる構成にしていたものではありませんでした。もし、今回の研究で、意図的に子ども自ら学びをつなげられるようにできれば、子どもたちの意志が強く発揮され、持続するのではないかと考えました。



4. 2つの視点から見る「つなぐ学び」

では学習の中で、子どもが何をつなぐのか。

本研究では、「つなぐ学び」を2つの視点から具体化します。

視点1 自らの**学び**をつなぐ

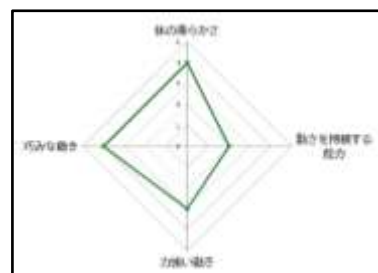
視点2 **他者**の学びを 自らの学びにつなぐ

【自らの学びをつなぐ】

ここで大切にしたいのは、子どもが「この前のやり方が使える。」「この考え方でやってみよう。」と、自分の学びをつないでいく姿です。ここでいう学びには、いくつか意味があります。

◇見通し・行動・結果

つなげる学びの1つとして、単元の見通しをもち、行動し、その結果を次の見通しにつなげるということが考えられます。これは、札幌市が課題探究的な学習を捉え直す視点として位置付けているAARサイクルとも関係の深いものだと考えています。



自分に合った課題を見つけるための、体力テストの数値を基にしたレーダーチャート。

◇獲得した知識⇔様々な場面や生活経験

前時までの学習で獲得した知識や生活経験を活用して問題を解こうとしたり、本時で明らかにしたことを次の時間の学習、次の単元などにつなげようとしたりすることも、学びをつなげている姿だと考えます。



工夫の視点と運動の効果の知識を運動の行い方の選択とつなげた。

◇学んだ学び方や働かせた見方・考え方⇔新たな課題

顕微鏡を使って追究した子どもの例のように、課題を解決した際に、学んだ解決の方法、いわゆる「学び方」を次の課題でも生かせないかとつなげることも学びをつなげることになると思います。また、単元を通して見方・考え方を働かせることで、その経験が、次の単元につながり、自在に働かせる姿として現れることもあるでしょう。

【他者の学びを自らの学びにつなぐ】

昨年度の取組では、視点2を「自ら他者とつながる」としていました。しかし、他者との「交流の場を設定すること」が目的化されてしまい、本当に大切にしていた「その交流の先に何をえられるのか」という意識が希薄だったという反省がありました。そこで今年度は、「なぜ話し合うのか」「何のために友達と考えを共有するのか」という目的をもったつながりを大事にします。

他者がどの工夫の視点を取り入れようとしているのか可視化することで、自分と違う視点を取り入れている他者の学びもつなげられるようにした。



終わりに

子どもたちが「友達とつながると、こんな発見がある。」「あの子の考えが、自分の考えを広げてくれた。」といった感覚をもつことができれば、対話や協働の価値を自覚し、それが学びへの新たな意志へとつながります。こうしたプロセスの中で、子どもたちは他者からの刺激を「学びとる」姿勢を獲得し、成長していくのだと考えます。

5. 終わりに

—研究を深めるために教師自身が問いをもつ—

「学びに自分の意志をもつ子」とは、具体的にどのような姿なのか。それは各教科において異なる表れ方をします。例えば、理科においては追究の連続性として、国語では思考の深まりとして、体育では目標に向けた粘り強さとして表出するかもしれません。各教科における「意志」の表れと、それがどの資質・能力の育成とつながっているのかを教師が明確に理解し、見取ることが重要だと考えます。

この過程において問われるのが、教師一人一人の「教科観」や「授業観」、「指導観」といったものではないでしょうか。研究は、単なる技術の研修ではなく、教師自身が問いをもって授業に向き合い、教師としての考え方を見つめ直すことでもあると思います。令和7年度の研究は、「意志をもって学ぶ子どもを育てる」ことを通して、子どもたちの学びをよりよいものにし、教師自身の成長も促す取組です。私たち教師が日々の授業や対話の中で、「意志が色濃く出る瞬間」を見取り、それを支える関わりや声掛けを積み重ねていくことが、研究の力になります。

意志をもって学ぶからこそ、たどり着ける力や姿があると信じて、今年度も一歩一歩、研究を進めて参ります。

(文責 研究部長 磯川 祐人)

【引用参考文献】

- 白井俊著『OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房 (2020)
- 田村学著『深い学び』東洋館出版社 (2018)
- 田村学著『学習評価』東洋館出版社 (2021)
- 鳴川 哲也/塚田 昭一編著『小学校理科と個別最適な学び・協働的な学び』明治図書出版 (2024)

【本単元で目指す意志をもっている姿とその理由】

自己の体力に関する課題を見付け、体の動きを高めるために工夫の視点を基に運動の行い方を選択している姿

高学年の体づくり運動では、体の動きを高めることで直接的に体力の向上をねらう。しかし、実際の学習では、体力向上の必要感や意欲をもてないまま運動を繰り返す子どもの姿が見られることがある。そこで、本単元では、運動の行い方の理解、工夫の視点の獲得を丁寧に行う時間を設定し、自己の体力に応じて取り組む運動を決める際に、工夫の視点を取り入れながら運動の行い方を選択できるようにした。そうすることで、自己の体力や動きの状況に応じて、必要感をもって課題を設定することができ、獲得した工夫の視点や運動の効果の知識をつなげて運動の行い方を選択する姿が生まれると考えた。また、そのような意志をもっている姿を、単元を通して生むことが自らの運動生活を創る基盤形成につながる。

【単元の目標】

- ・体の動きを高める運動の行い方を理解するとともに、自己の体力に合わせて工夫の視点を取り入れた、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができるようにする。【知識及び運動】
- ・自己の体力に応じて、体力を高めるために必要な体の動きを高める運動について考え、自己の体力に合わせて工夫の視点を取り入れた運動の行い方を選択することができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- ・体の動きを高める運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

視点1 自らの学びをつなぐ

工夫の視点と運動の効果の知識を自らの運動生活へ

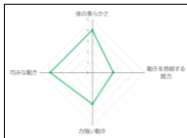
日常の運動や体力テストの数値を基にした体力のリーダーチャートを手掛かりに、自分に合った課題を見付けられるようにする。さらに、運動の行い方を理解し、体力に合わせた工夫の視点を獲得してから、自己の体力に応じた運動に取り組むよう単元を構成することで、工夫の視点と運動の効果の知識をつなげて、目的意識をもって運動の行い方を選択できるようにする。単元の終盤では、更なる体力向上に期待がもてるような振り返りを行うことで、授業以外でも運動に取り組む姿をねらう。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

異なる工夫の視点によるグループ設定

本時では、子どもが選択した運動が同じでも、取り入れたい工夫の視点が異なるようグループを設定し、どの工夫を運動に取り入れようとしているのかをボード上に位置付け、可視化する。そうすることで、自分とは違う視点を取り入れている他者とも関わられるようになり、より自分に合った体の動きを高める運動の行い方を選択することができると思った。また、1つの運動の行い方に留まる子どもを見取り、自分の活動を見直すよう促すことで、他者の学びをつなげられるようにする。

【単元構成（5時間扱い）】

1 時間目	2 時間目	3 時間目	4 時間目	5 時間目（本時）				
自分の体力を高めるためには、どんな体の動きを高める運動をするといいかな？								
自分の体力に合った、体の動きを高める運動をしよう！ 	体の柔らかさを高める運動の行い方が分かったよ。家でもお風呂上がりに取り組んでいるから、続けていくよ。 力強い動き・巧みな動き・動きを持続する能力を高めるには、どんな運動をするといいかな？			もっと自分の体力を高めるためには、どんな運動の行い方をするといいかな？				
自分は動きを持続する能力に課題があるな。	力強さ 			巧み 				
	持続 							
「持続」を高める運動に取り組みたいな。	距離	姿勢	人数	用具	リズム	回数	ペース	時間
「持続」を高めるためには、どんな運動をするといいのかな。	手押し車で 姿勢 を変えて、足を片足にすると、少しきつくなったよ。		巧みでは、「タイミング・バランス・リズム・力加減」を高めることができるね。		3 分間で心拍数が126 以上になるくらいの ペース で走ろう。			
今の自分の体力に合った目標を決めたり、友達と一緒に取り組んだりすることで、楽しく体力を高める運動に取り組めそうだよ。	コーンなどの 用具 を使って、ちょっときつくなるようなコースに挑戦してみよう。		人数を増やして、一緒に跳ぶ タイミング を合わせる工夫をしたよ。		長なわは跳び方を工夫したら巧みで、跳び続ける 回数 や 時間 を変えると持続になるね。			
自分の体力や、体の動きを高めるための運動が分かったよ。	力強い動き・巧みな動き・動きを持続する能力を高めるための運動の行い方や、工夫の視点が分かったよ。もっと自分の体の動きを高めて体力を高めたいな。				自分合った工夫の視点を取り入れ、自分の体力を高めるために必要な運動の行い方を選ぶことができたよ。			
	チャートで力強さが課題だったから、力強さを高める運動で、進む 距離 を長くしたいな。		小型ハードル走でリズムよく跳び越せなかったから巧みな動きで、 リズム と 姿勢 を組み合わせたいな。		持続が高いから、もっと伸ばすために長なわを跳ぶ 回数 を増やしたいな。			
					各運動領域 体力テスト 日常の運動生活			

【本時の目標】

自己の体力に応じて体の動きを高めるための運動を考える活動を通して、課題に合った工夫の視点を取り入れ、体の動きを高める運動の行い方を選ぶことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

【本時の展開】（５／５）

子どもの意識と活動		つながっている学び	教師の意図とかかわり								
＜前時まで＞ 力強い動き・巧みな動き・動きを持続する能力を高めるための運動の行い方や、各運動の工夫の仕方を理解して運動に取り組んでいる。また、体力のレーダーチャートを基に、「〇〇を高めたい。」という思いをもち、本時で行いたい運動や運動に取り入れたい工夫の視点の見通しをもっている。 チャートで力強さが課題だったから力強さを高めたい。 小型ハードル走でリズムよく跳び越せなかったから巧みを高めたい。 持続が高いから、もっと伸ばすために持続に取り組みたい。											
○準備活動（場や用具の設定、挨拶、体の柔らかさを高める運動） 自分に合った体の動きを高める運動を工夫しよう！ 手押し車で進む距離をもっと長くしてみたいな。 長なわを跳ぶときにリズムと姿勢の工夫を組み合わせたい運動にできないかな。 長なわを跳ぶ回数をもっと増やしたいな。 もっと自分の体力を高めるためには、どんな運動の行い方をするといいかな？ ○グループでの運動 力強さ コースの距離を5mくらいに長くしよう。 巧み 人数を増やしてリズムを速くしながら跳ぼう。 持続 跳ぶ回数を連続30回にして続けてみよう。 <table><tr><td>距離</td><td>姿勢</td><td>人数</td><td>用具</td><td>リズム</td><td>回数</td><td>ペース</td><td>時間</td></tr></table> どうすればきつい運動になるかが分かったよ。 なわに入るタイミングとリズムを高める運動ができたよ。 ボールを操作する力加減とバランスを高める運動ができたよ。 どれくらい続けるといいかが分かったよ。 自分に合った工夫の視点を取り入れ、自分の体力を高めるために必要な運動の行い方を選ぶことができたよ。		距離	姿勢	人数	用具	リズム	回数	ペース	時間	自分の体力 運動の行い方と工夫	工夫の視点と運動の効果の知識を結び付けながら運動に取り組めるように、前時までに積み上げてきた運動の行い方と工夫の視点を想起する。 (視点 1)
距離	姿勢	人数	用具	リズム	回数	ペース	時間				
○運動の振り返り 自分たちで考えて工夫することが大事だと分かったから次の体育でも続けていきたい。 体力テストで自分の体力を確かめて、もっと高める運動に取り組みたいな。 ペースを工夫して走る運動を続けて、持続を高め続けたい。 ○整理運動、場や用具の片付け、挨拶		工夫の視点	運動に取り入れたい工夫の視点が異なる子ども同士でグループを構成することで、自分とは違う他者の視点を取り入れられるようにするとともに、1つの運動の行い方に留まる子どもを見取り、自分の活動を見直すよう促す。 (視点 2)								
		運動の効果の知識	グループでの活動中にどの運動をどう工夫したのかを問い、その工夫の効果についての考えを引き出すことで、運動の工夫が自分の目的に合っているか検討しながら運動できるようにする。								
			体の動きを高める運動の行い方に取り入れた工夫の視点について振り返ることで、今後も自分に合った運動を続けようとする意欲につなげる。 (視点 1)								

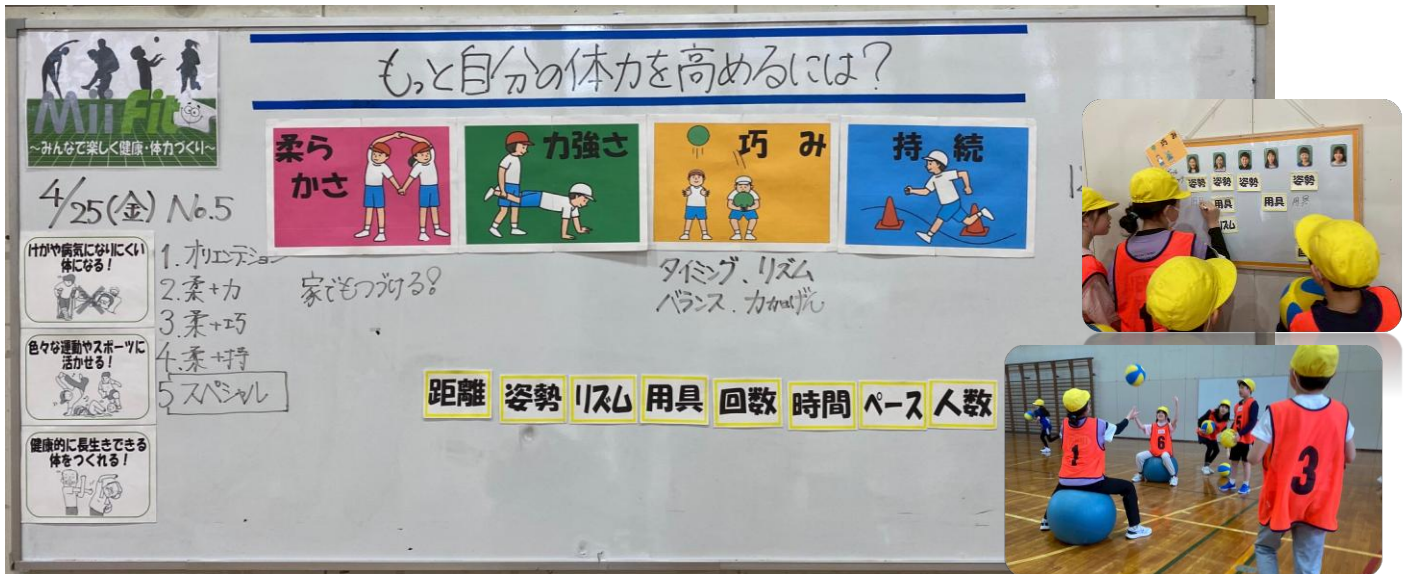
【本時の評価】

体の動きを高めるために、自己の体力や課題に合った工夫の視点を取り入れ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動の行い方を選んでいる。

（行動観察・グループボード・学習カード）

授業後の振り返り

【本時の板書】



視点1 自らの学びをつなぐ

【成果】

- 日常の運動や体力テストの数値を基にした体力のレーダーチャートを手掛かりに体の動きを高める運動（柔らかさ・力強さ・巧み・持続）に取り組んだことで、「自分は～～だから、〇〇を高めたい。」というような意志をもち、体力向上の必要感や意欲をもって運動に取り組む姿が見られた。
- 何が高まる運動なのかを子どもが明確に捉えられるような運動内容の設定や、運動の行い方の理解と工夫の視点の獲得後に自己の体力に応じた運動に取り組むといった単元構成により、「〇〇を高めるために、△△な運動に□□な工夫を取り入れて行う。」といった工夫の視点と運動の効果の知識をつなげて、運動の行い方を選択する姿が見られた。
- 何のためにその運動をするのか、なぜその工夫を取り入れたのかを問うことで、工夫の効果と運動の目的の整合性を子どもが確かめながら運動に取り組むことができた。様々な工夫を試しながら運動を行い、身に付いた力について振り返る場を設定することで、子どもが単元の学びと日常の運動生活との結び付きを自覚することにつながった。

【課題】

- 日常の運動や体力アンケート（各4項目を5点満点で評価、自己評価と体力テストや手軽な運動で数値評価）を基にしたレーダーチャートを、子どもが自己の体力に関する課題を見付ける手立てとした。体力アンケートの内容を検討することで、子どもの体力をより正確に表したレーダーチャートになると考えた。

視点2 他者の学びを自らの学びにつなぐ

【成果】

- 子どもが選択した行いたい運動（力強さ・巧み・持続）の中でも、運動に取り入れたい工夫の視点が異なるようにグループを設定したことで、自分とは違う視点を取り入れている他者と関わったり、運動を通して他者の工夫の視点を経験し、学び取ることを選択したりすることができていた。
- 運動に取り入れようとしている工夫の視点をグループ毎のボード上に位置付けて可視化したことで、他者がどのような視点を取り入れようとしているのかが見えやすくなり、自分の運動の行い方へ取り入れやすくなっていた。

【課題】

- 行いたい運動と異なる視点によるグループ設定は有効だったが、「他者の学び」というものがグループにいる数人で留まってしまうことにもなった。同じ運動のグループ同士で、運動の場とボードの配置を近くにしたが、そこへの広がりあまり見られなかった。同じ運動の他グループの活動に目が向くように教師が関わることで、より多くの他者から学び取ることを選択できたのではないかと考えた。
- 本時では1つの運動の行い方に留まる子どもを見取り、自分の活動を見直すよう促すことを想定していたが、子どもは始めから他者を求めていた。教師の関わりなく他者を求める集団なのであれば、「なぜその友達の工夫を取り入れたらよかったのか」と根拠を問うなどの関わりにより、他者の学びが自らの学びにつながったことの価値の自覚を促すことができたと考えた。